

# 大学生の現在完了形の理解度 — 文法力・英語熟達度・語彙サイズとの関係 —

畑中詩織・松本知子

## 1. はじめに

昨今の日本の英語教育において、従来の文法訳読中心の指導から、話すこと・書くことを重視した発信型のコミュニケーションを重視する指導への転換が叫ばれている。また、従来の文法指導は、学習者のコミュニケーション能力の育成に寄与しない場合が多いとしばしば問題視されてきた。村野井(2016)は、指導が文法の形式中心で、意味・機能までは扱わないため、「使える」ための適切な文法力が身に付かないという問題点を挙げている。その結果、文法知識はあっても、実際の会話場面では使用することができない日本人英語学習者が少なくないのではないかという指摘である。そして、これまでの指導とは異なる主体的な対話を取り入れた授業を行っているにも関わらず、以前と比べて英語能力があまり伸びていないのが現状であると言われる。本研究では、中学校と高等学校で扱われる文法項目の中でも習得が難しいとされる現在完了形を取り上げ、その理解度を測るテストを作成し、大学生を対象に、英語力と現在完了形の理解度の関係を明らかにすることを目的とする。

## 2. 先行研究

### 2.1 現在完了形の難しさ

日本人英語学習者が、文法面において習得が困難であると感じるものの1つに時制が挙げられる。渡邊(2018)は、これは、日本語と英語で時制の扱い方が異なるためであると述べている。例えば、英語の現在形と現在進行形は、文法形式は異なるもののどちらも日本語では「～している」と訳され、学習者は混乱する。このように、日本語と英語では時制の捉え方が異なり、これが日本人英語学習者の時制の理解を難しくしている要因の1つであると考えられている。

本研究で扱う現在完了形は、時制の中でも特に日本人英語学習者にとって習得が難しい文法項目の1つであり、あらゆる文法項目の中でも難しいと言われている。白畑(2018)は、習得が困難な項目の1つに現在完了形を挙げており、中條他(2012)は大学1年生を対象に文法力テストを実施し、文法項目の正答率を集計した結果、中学校で扱う21個の文法項目のうち、現在完了形は3番目に正答率が低い項目であったと報告している。現在完了形は中学校で学習する項目であるにも関わらず、多くの大学生が未だ理解できていないままであることが示唆される。

日本人が現在完了形を苦手とする理由として、現在完了形は日本語にはない概念であること(占部・白畑, 2014)や、現在完了形と過去形がどちらも「～した」の形で表すことができるため、使い分けが困難であること(高田, 2011; 杉浦, 2008)が挙げられている。また、高野(2011)は日本語と英語の性質の違いについて、学習者が母語の感覚のみを頼りに英語の時制と相を理解しようとして

しまうことを、現在完了形の習得が困難な理由として挙げている。

以上のことから、現在完了形を正しく使用するには、その表面的な意味を覚えるだけでは足りず、本質から理解する必要があると考える。現在完了形の本質とは、現在から過去に遡り、現在との関連を持つものである（小寺，1977）。しかし、日本の英語教育においてはこのような特徴はあまり重要視されず、「(ちょうど) ~したところだ」「~してしまった」「~したことがある」（小寺，1977）など、日本語訳と対応させた指導が主に見られ、これが学習者の混乱に繋がると考える。杉浦（2008）や小屋（1997）は、since や already といった副詞に頼っても現在完了形の理解にはつながらないとし、現在完了形を使用すべき場面や文脈への注意を向けることが必要であると述べている。

## 2.2 文法力と英語熟達度と語彙力との関連性

本研究は、大学生の現在完了形の理解度とリーディング力、リスニング力、語彙力、そして文法力との関連性について明らかにすることを目的とする。なお、英語の4技能のうち2技能であるスピーキング力とライティング力は、その理解度測定のための信頼できるテストを作成することが難しいと判断し、リーディング力とリスニング力のみに着目した。そして、それらを英語熟達度とした。本研究は現在完了形の理解度と上記の英語に関係する力との関連性に着目し、さらに文法力と各要素との関連度も併せて取り上げることとする。ここで文法力に着目した理由は、フォード・小林（1993）の調査で、全ての文法項目の習得が文法力と比例するわけではなく、項目によってどの段階で習得されるか異なるということが判明しており、現在完了形においても学習者の文法力の程度によって習得の差が見られるのかを明らかにするためである。

文法力と英語熟達度との関係について、柘元（2016）は、短期大学の学生の中学英語の文法力とTOEICのトータルスコア、さらにリーディングのスコアにおいて高い相関関係があると報告している。なお、TOEICのリスニングのスコアについては、リーディングほどの高い相関関係は認められないものの、一定程度の相関関係があるとしている。つまり、文法力と英語の熟達度を測る尺度として使用されるTOEICスコアには相関関係があることを明らかにしている。田中（2017）は、TOEIC Readingの文法問題Part 5について、使用されている単語の意味や用法を全て知っていた場合、96.3%の問題は中学英文法の知識のみで解けると述べている。ここからも文法力とリーディング力との関連が読み取れる。

次に、文法力と語彙力について、Aksoy（2020）はその関係性の高さに言及している。文法力と語彙力についてはこれまでリーディング力との関連での研究例が多い。文法力とリーディング力には、語彙力とリーディング力ほどは高い相関関係が見られなかったことがZhang（2012）で確認されている。森永（2008）も同様に、語彙力と文法力との相関関係に加え、語彙力とリーディング力との関連の高さを指摘しており、van Gelderen et al.（2004）は、語彙はリーディングにおいて重要な役割を果たすと説明している。以上のことから、語彙と文法共にリーディングとの関連があるが、特に語彙力がリーディングに大きく影響すると考えられる。これらから、文法力とリーディング力、そして、文法力と語彙力にも相関関係があることが示唆される。

## 2.3 リーディング力・リスニング力の構成要素

本研究では、英語の熟達度を測る尺度として使用されるTOEICのリーディングスコアとリスニン

グスコアを英語力の指標として参照するが、リーディング力とリスニング力には、それぞれ異なる能力が関わっているとされている。中村（2000）は、リーディング力について、読み物の内容に関する能力、スキミング・スキヤニング能力、文脈を把握し結論を引き出す能力、重点を把握し要約する能力、読み物を理解し結論を引き出す能力が関係すると説明している。中村（2000）は、リーディング力を構成する要素として直接「文法力」という言葉は使用していないが、スキミングやスキヤニング、読み物の理解という点で、少なからず文法力が関係すると考える。

リスニングの構成要素について、坂田（2020）はリスニングは音声分析と内容理解の2つの構成要素から成り、音声分析には語彙知識と語順並べ替えの知識、内容理解には語彙知識が影響するとしている。リスニングはリーディングと異なり、英文全体を見て意味を理解することはできないが、語順を理解している学習者は、「共起する単語列について心内表象を持っている」（p. 51）ため、それがリスニング力につながると説明している。さらに、池田（2003）はリスニングに関する力や技能を列挙しており、リスニングに必要な能力として、聞く意欲、背景知識、聴力・記憶力、語彙力・文法力・音素識別能力、要点を把握する技能を挙げている。また、リスニングが困難である理由として、スペルと音を結び付けることの難しさ、情報処理にかかる時間、日本語に翻訳して理解しようとすることを挙げ、リスニング力を身につけるためには、語彙力・構文の理解力・文法力が必要であることを挙げている。以上のことから、リスニングは語彙や文法知識だけでなく、背景知識や要点把握力、記憶力など、言語知識以外の面とも関連があると言える。

### 3. 研究課題

先述の先行研究の概観を踏まえ、本研究では、次の3つのリサーチクエスチョンを設定した。

RQ1: 現在完了形の理解度とリスニング力・リーディング力、語彙力との間に相関関係があるか。

RQ2: 現在完了形の理解度と文法力との間に相関関係があるか。

RQ3: 現在完了形理解度における上位群と下位群の間で、その理解度と認識に違いがあるか。

## 4. 方法

### 4.1.1 現在完了形理解度テスト

大学生の現在完了形の理解度と英語熟達度（TOEIC スコア）及び語彙力（語彙サイズ）の間の関係を明らかにするために、現在完了形と過去形の違いの理解度を測るテストを作成した（資料1を参照のこと）。過去形との違いに着目したのは、先述したように、現在完了形と過去形との使い分けが困難とされているため、現在完了形の理解度を測る尺度となると考えたためである。このテストは、一般的な文法知識を測る Part 1 と、現在完了形の本質的な理解度を測る Part 2 の2部構成である。なお、回答時間の目安は20分程度とした。

まず、Part 1 について説明する。Part 1 の問題例を以下に示す。

A: 運動するのが好き？

B: Yes, especially running. I like running so much that ( ② ) a full marathon three times.

① I'd completed ② I've completed ③ I complete ④ I'm completing ⑤ I was completing

Part 1 は、杉浦 (2008) の「時制と相の言語形式、意味、言語使用の3つの側面の理解を問う多肢選択問題の筆記テスト」(p. 21) を参考に作成した。問題は会話文の一部が空欄になっており、原形、過去形、現在完了形、過去進行形、現在進行形、過去完了形の5個の選択肢の中から適切な文法形式の語(句)を選ぶ問題とした。現在完了形の理解度を問う問題12問(経験、結果、完了、継続の用法各3問)に加え、過去形の問題も3問用意し、使い分けができていないかを確認した。さらに、調査の意図に気付かれないよう、現在形、現在進行形、過去進行形の問題をそれぞれ2問追加した。問題は1問1点で採点した。現在形、現在進行形、過去進行形の問題は点数には含まないため、満点は15点である。

続いて Part 2 の説明をする。Part 2 の問題例を以下に示す。

She has been ill for three days.

- ① 彼女の体調がまだ治っていない場合。( ○ )
- ② 話者が彼女の体調について知っている場合。( ○ )
- ③ 彼女の体調がもう回復している場合。( × )

Part 2 は、松沼 (2007) の「現在完了形の本質及び日本語に惑わされずに適切な表現を選択できるかを問うために作成した問題」(p. 418) を参考にした。短い英文を読み、様々な状況が書かれた選択肢の中から、その英文を使用できる状況には○を、使用できない状況には×を選ぶという解答形式で、1文につき3問の問いがある。現在完了形の問題36問(各用法9問×4用法)、過去形の問題9問を用意した。また、それ以外の問題として現在形、現在進行形、過去進行形の問題を6問ずつ出題している。それ以外の問題は点数に含まないため、満点は45点である。Part 1 と Part 2 の合計点は60点である。

#### 4.1.2 TOEIC および V-check

学生の現在完了形の理解度と英語熟達度・語彙力との相関を見るにあたって、TOEIC-IP Listening & Reading (以下、TOEIC L&R) と、学生が課題の一つとして取り組んだ V-check を使用した。V-check とは、2008 年に Charles Brown 氏が開発した、学習者の既知の単語と知らない単語を特定して語彙力を測定するものである。約5分間の単語テストで誤った単語のみの単語リストが作成され、その単語リストの中から再び問題が出題され、学習者には既知の英単語数と自身のレベルが表示される仕組みである。本研究では、V-check によって測定された学生の既知の英単語数をもとに、現在完了形の理解度と TOEIC スコアとの関係を検討した。

TOEIC L&R の点数は、令和5年4月に参加者が受けたもの、V-check は令和5年4月時点での語彙数を参考にした。

### 4.1.3 文法力テスト

現在完了形の理解度、語彙数、リーディング・リスニング力と文法力の相関を見るために、学生の文法力を測る手段として文法力テストを作成した（資料2を参照のこと）。問題例は以下のとおりである。

I ( ② ) in the sea then, so I didn't have my smartphone with me.

① swim    ② was swimming    ③ swam    ④ am swimming    ⑤ have swum

文法力テストでは、折田・村里（2008）の「英文法自己診断アンケート」（p. 22）で挙げられている文法項目のうち、現在完了形を除き、過去進行形、仮定法過去、受動態、未来進行形、動名詞、助動詞、現在分詞、前置詞、関係副詞、現在進行形、過去完了形、接続詞、不定詞、仮定法過去完了、過去分詞、分詞構文、関係代名詞、比較、疑問、否定、代名詞の問題を計21問出題した。問題の難易度にばらつきが出ないように、センター試験で出題された問題を元に作成した。出題形式は5択の穴埋め問題で、点数配分は1問1点の21点満点である。

### 4.1.4 「経験してきた文法指導」アンケート

現在完了形の理解度とこれまで経験してきた指導法についての現状把握、そして留学経験の有無を確認するために計5問の記述式のアンケートを作成し、現在完了形理解度テストを解いてもらった後に取り組んでもらった。アンケートの内容は以下のとおりである。

1. 現在完了形はどのような時に使用しますか。
2. 現在完了形と過去形の違いは何ですか。
3. 現在完了形について、中学校の授業ではどのような指導を受けましたか。  
 (例) 日本語訳と対応させながら学んだ。アクティビティで実際に使用しながら学んだ。
4. 現在完了形について、高等学校の授業ではどのような指導を受けましたか。  
 (例) 日本語訳と対応させながら学んだ。アクティビティで実際に使用しながら学んだ。
5. 英語圏で2カ月以上留学、生活したことはありますか。

問1と問2は、現在完了形の理解度に関する質問で、問3と問4は現在完了形について受けてきた指導に関する質問である。問5は、参加者の留学経験の有無を確認するための質問である。

## 4.2 参加者

参加者は、国立大学1年生（英語非専攻）145名であった。TOEIC L&R及びV-checkにおいて、極端に点数の低い学生のデータは信頼性に欠けると判断し、またTOEIC L&Rではリーディングまたはリスニングの点数が二桁の学生、V-checkでは推定語彙数が2,000ワード以下の学生のデータは分析対象から省くことにした。さらに、アンケート問5により、英語圏への留学経験が2カ月以上ある学生のデータも除いた結果、TOEIC L&R、V-check、現在完了形理解度テスト、文法力テスト、アンケート全てのデータが揃った学生は116名であり、この116名について分析を行った。



### 4.3 手続き

作成した現在完了形理解度テストについて日本人英語教師1名と英語を母語とする英語教師6名の協力のもと、正解となる選択肢が複数存在しないことを確認した。本論文執筆者の一人の3クラスの授業において、学生に現在完了形理解度テスト、文法力テスト、アンケートへの協力を依頼したうえで、取り組んでもらった。2クラスは2023年5月23日に、1クラスは2023年5月25日に実施した。当日欠席した学生の回答を得るため、2023年6月13日を締め切りとした。また、オンラインで授業を受講している学生や欠席者がいることを踏まえ、調査にはGoogleフォームを使用した。

現在完了形理解度テストと文法力テスト、英語熟達度（TOEICスコア）、そして語彙力との関係を明らかにするためにこれらの変数間の相関を分析した。さらに、学習者の現在完了形の理解度と習得を難しくしている要因を検討するために、参加者116名のうち、現在完了形理解度テストの点数から、現在完了形の理解度が高いと考えられる上位33名と理解が十分でないと考えられる下位38名に着目して分析を行った。

## 5. 結果

### 5.1 現在完了形理解度と TOEIC スコア・語彙力・文法力との関係

全てのデータが揃った116名について分析を行う。各テストの基本統計量は表1のとおりである。

表1 現在完了形理解度テスト、TOEIC、V-check、文法力テストの基本統計量 ( $n = 116$ )

	Mean	SD	最小値	最大値
現在完了形理解度テスト	48.66	4.58	33	57
TOEIC Total	506.60	97.74	265	760
TOEIC (R)	235.52	61.47	105	380
TOEIC (L)	271.08	53.97	130	415
V-check	4928.30	1231.45	2333	7637
文法力テスト	11.52	2.75	6	18

参加者の TOEIC L&R の平均点は 506.60 点で、同テストの 2022 年度の大学 1 年生の平均スコア 458 点より高い点数であった (TOEIC® Program DATA & ANALYSIS, 2023)。現在完了理解度テスト及び文法力テストに関しては、平均点、標準偏差、最小値、最大値から適切な難易度であったと考えられる。

現在完了形理解度テストと TOEIC, V-check, 文法力の間に相関関係があるか検証するために、ピアソンの相関分析を行った。相関は表2のとおりである。

表2 現在完了形理解度テスト、TOEIC、V-check、文法力間の相関 ( $n = 116$ )

	1	2	3	4	5	6
1. 現在完了形理解度テスト	-	0.248**	0.331**	0.071	0.154	0.375**
2. TOEIC Total		-	0.867**	0.823**	0.301**	0.373**
3. TOEIC (R)			-	0.431**	0.361**	0.409**
4. TOEIC (L)				-	0.134	0.210*
5. V-check					-	0.274**
6. 文法力テスト						-

(注) \*\* $p < .01$ . \* $p < .05$ .

まず、現在完了形理解度テストと TOEIC L&R のスコアの相関について示す。現在完了形理解度テストと TOEIC Total の間には弱い相関 ( $r = 0.248$ ,  $p < .01$ ) が見られ、TOEIC Reading の間には弱い相関 ( $r = 0.331$ ,  $p < .01$ ) が見られたが、TOEIC Listening との間には相関が見られなかった ( $r = 0.071$ , n.s.)。この結果から、現在完了形に関する知識とリスニング力は相関が見られず、現在完了形に関する知識とリーディング力の間には弱い相関があることがわかった。Zhang (2012) の調査でも、文法力とリーディング力の相関が弱く出ていたことから、現在完了形理解度テストと TOEIC Reading の間に弱い相関が出たことは妥当な結果である。

次に、現在完了形理解度テストと V-check の相関は見られなかった ( $r = 0.154$ , n.s.)。この結果は、Aksoy (2020) の報告している文法力と語彙力に高い関連性があるという結果とは一致しなかった。このことは考察で取り上げる。

続いて、V-check と TOEIC のスコアの相関について示す。V-check と TOEIC total 間の相関係数は 0.301 ( $p < .01$ )、V-check と TOEIC Reading 間の相関係数は 0.361 ( $p < .01$ ) と弱い相関が見られたが、V-check と TOEIC Listening との間には相関が見られなかった ( $r = 0.134$ , n.s.)。

これらの結果から、現在完了形に関する知識とリスニング力、語彙力の間には相関がなく、現在完了形に関する知識とリーディング力の間、語彙力とリーディング力の間には弱い相関があることがわかった。

最後に、文法力テストと現在完了形理解度テスト、TOEIC、V-check 間の相関について示す。文法力テストと現在完了形理解度テストの間には弱い相関 ( $r = 0.375$ ,  $p < .01$ ) が見られ、予想よりも低い結果となった。ここから、現在完了形に関する知識と文法力は関連性が少しあることがわかった。

文法力テストと TOEIC Total との間には弱い相関 ( $r = 0.373$ ,  $p < .01$ )、文法力テストと TOEIC Reading との間には中程度の相関 ( $r = 0.409$ ,  $p < .01$ ) が見られた。文法力テストと TOEIC Listening との間には弱い相関 ( $r = 0.210$ ,  $p < .05$ ) が見られた。これらの結果から、文法力とリスニング力の間には弱い相関があり、文法力とリーディング力の間には中程度の相関があることがわかった。Zhang (2012) では文法力とリーディング力は弱い相関を示しており、本研究は Zhang を支持する結果となった。

## 5.2 現在完了形への認識・理解度の違い

現在完了形理解度テストの結果と、実際に学生が現在完了形についてどのような認識を持っているかについてアンケートの記述内容と併せて検討する。以下、理解度テストのスコア 52 点～57 点の上位 33 名と、スコア 33 点～46 点の下位 38 名に分け、上位群と下位群の回答を比較する。

以下、現在完了形理解度テストの上位群と下位群の回答について、KH Coder の共起ネットワークを元に分析を行う。共起ネットワークとは「共起の程度が強い抽出語（出現パターンの似通った抽出語）を線で結んだネットワーク図」（西村・清水, p. 1）のことである。Frequency の円の大きさの違いについて、円の大きさが大きいほど、抽出語の登場回数が多いことを意味する。

問 1 「現在完了形はどのような時に使用しますか。」の下位群の回答の共起ネットワークは図 1a、上位群は図 1b のとおりである。

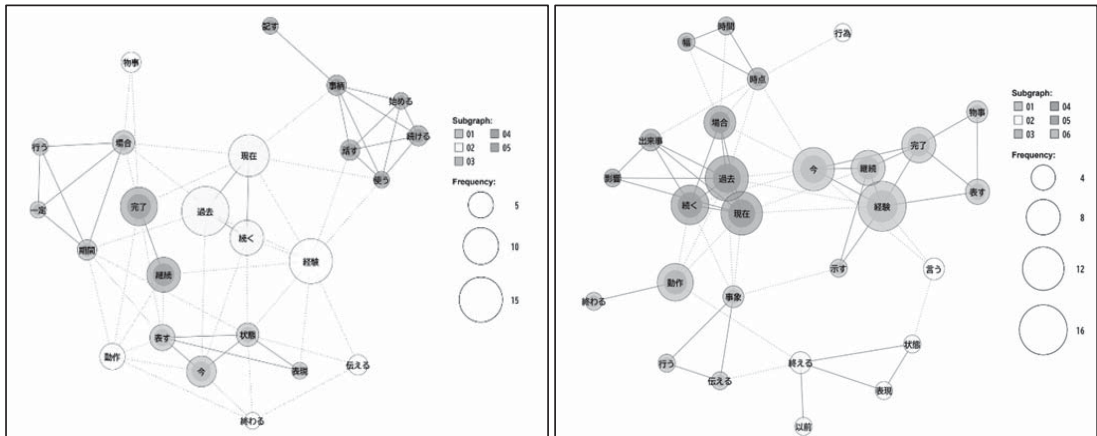


図 1a アンケート問 1 下位群の共起ネットワーク 図 1b アンケート問 1 上位群の共起ネットワーク

小寺 (1977) は、現在完了形の性質として「現在までの期間を示す」「現在との関連を持つ過去である」「時間的に不定である」の 3 つを挙げており、これらを基準に学生の回答を分析した。下位群の回答で最も多く共に使用されていた語は「過去」「現在」「続く」であった。このことから、下位群の回答の多くが「過去から現在に続いている」のように、現在との関連性について触れていることが明らかになった。上位群の回答で多く使用されていた語は「過去」「現在」「続く」と、「経験」「継続」「完了」「今」であった。前者の語の組み合わせは下位群と同じく、上位群の回答も多くが現在との関連性についての説明であったことが判明した。後者の語の組み合わせからは、上位群は 3 用法全てを意識していると考えられる。以上のことから、上位群・下位群どちらも現在完了形の性質について説明できている学生が多いと言える。

3 つの用法も、上位群と下位群の両方で多く見られ、上位群は 3 つの用法が同時に共起しているが、下位群は「経験」が他の用法とは別の群にある。つまり、下位群には 3 用法のうち経験用法のみに言及していた学生が多いことが示唆される。上位群は「現在完了形」から 3 つの用法を意識していたが、下位群は経験の用法が強く印象に残っていたことが考えられる。また、上位群の方が「今」という語を頻繁に使っている。これは、「現在との関連を持つ」という本質に関連したキーワードで、上位群の方が現在完了形の本質を見抜いている学生が多いということを反映していると考えられる。さらに、



上位群の方がネットワークにまとまりがあり、上位群はより細かく正確に説明ができていることも読み取れる。

次に、問2「現在完了形と過去形の違いは何ですか」に対する回答を示す。下位群の回答の共起ネットワークは図2a、上位群は図2bのとおりである。

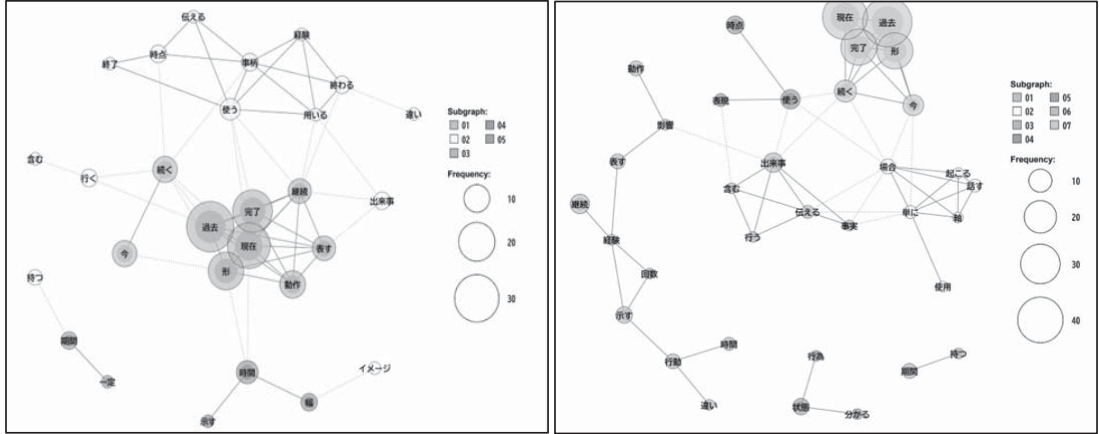


図2a アンケート問2 下位群の共起ネットワーク 図2b アンケート問2 上位群の共起ネットワーク

小寺（1977）は現在完了形について、「現在を含む期間を示し」（p. 68）、過去形については「現在を含まず、現在とは時間的に差があることを表す」（p. 69）と説明している。また、関（2022）は現在完了形と過去形の違いについて、「現在完了形は線のイメージで、過去形は点的イメージ」（p. 76）であると説明している。これらを踏まえて学生の回答を分析した。

理解度を説明する際に「過去形」「現在完了形」という語が多く使用されている。このことを踏まえて、「過去」「現在」「完了」「形」以外の語に着目する。上位群と下位群ともに「今」「続く」や、「期間」「持つ」が共起している。このことから、どちらも「今も続けている」、「一定の期間を持つ」など、現在完了形の本質を捉えていることが示唆される。

問3「現在完了形について、中学校の授業ではどのような指導を受けましたか。」に対する回答を示す。下位群の回答の共起ネットワークは図3a、上位群は図3bのとおりである。

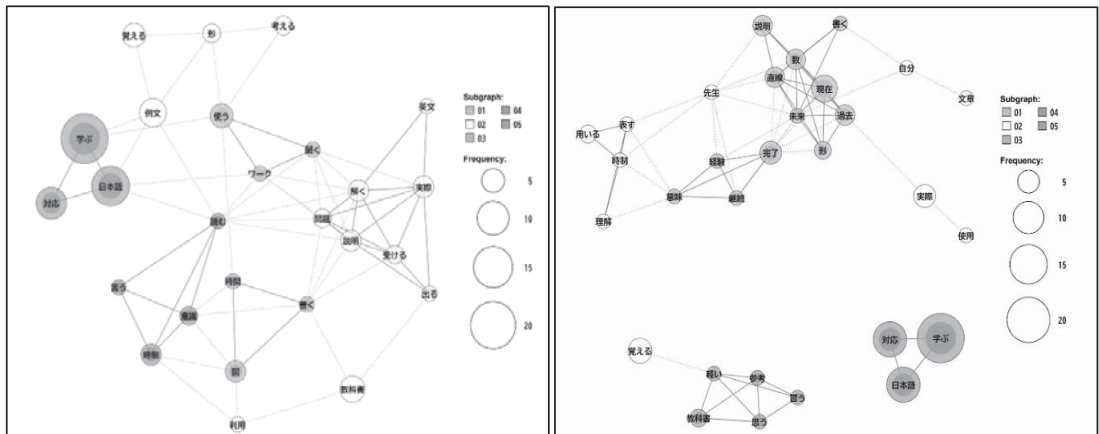


図3a アンケート問3 下位群の共起ネットワーク 図3b アンケート問3 上位群の共起ネットワーク

上位群と下位群、共に「日本語」「対応」「学ぶ」という語が最も多く使われていたことから、どちらも日本語と対応させて学んだ学生が多くいる。また、上位群は「実際」「使用」、「自分」「文章」「書く」という語も使用している。ここから、上位群には実際に現在完了形を使用し、自分で文章を書くなどのアウトプット活動を体験していた学生がいたことが考えられる。一方、下位群の回答にはこのようなアウトプット活動と結びつく語は見られず、「例文」「覚える」や、「時制」「意識」「読む」といった、インプット活動に関する回答が見られた。ここから、上位群の方が実際に現在完了形を使用して学習したのではないかと推定される。

最後に、問4「現在完了形について、高等学校の授業ではどのような指導を受けましたか。」に対する回答を示す。下位群の回答の共起ネットワークは図4a、上位群は図4bのとおりである。

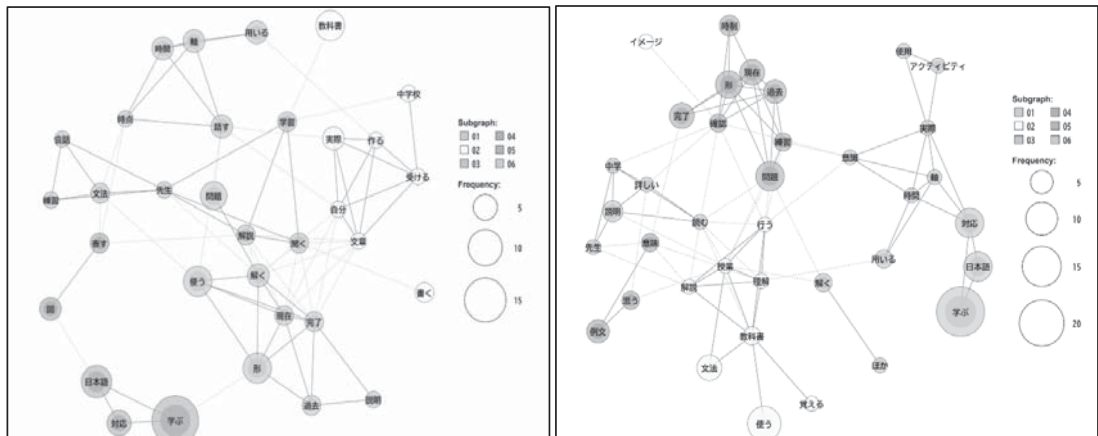


図4a アンケート問4 下位群の共起ネットワーク 図4b アンケート問4 上位群の共起ネットワーク

上位群と下位群、共に「日本語」「対応」「学ぶ」の語が最も共起していた。これは問3の結果と同じく、「日本語で対応させて学んだ」学生が多くいたことを反映している。その他にも、上位群と下位群どちらも「問題」と共に「演習」や「解く」、「教科書」と共に「使う」や「学習」、「先生」と共に「解説」や「説明」といったインプット学習に関する語が共起している。また、上位群では「実際」「使用」「アクティビティ」、下位群では「実際」「自分」「文章」「作る」や「会話」「練習」といったアウトプット活動に関する語が共起している。つまり、上位群と下位群どちらもインプット、アウトプットの量と頻度は同程度であったことがわかる。以上のことから、上位群も下位群も指導法に大きな差はなく、理解度には学習者が経験した指導および学習の質の差が影響していると解釈できる。

アンケートの結果から、上位群と下位群の現在完了形理解度テストの正答率には差があったにも関わらず、どちらも現在完了形の性質について言語化できているといえる。また、上位群と下位群のインプットとアウトプット活動の量や質に違いがあると思われるものの、中学校と高等学校で、上位群も下位群も現在完了形を日本語訳と対応させながら学んできたことが推察される。

## 6. 考察

RQ1 は、現在完了形理解度テストと TOEIC スコア、V-check との間に相関があるのか、というものであった。現在完了形理解度テストと TOEIC Listening との間には相関が見られなかった ( $r = 0.071$ ) が、TOEIC Reading との間には弱い相関 ( $r = 0.331$ ) が見られることがわかった。TOEIC Listening との間に相関が見られなかった理由については、リスニング力に文法知識も関連があるものの、語彙の知識 (坂田, 2020) や記憶力や背景知識 (池田, 2003) など、文法知識以外の要素が大きく影響していることが考えられる。リーディングに関しては、TOEIC Reading を解く上で、現在完了形以外の文法項目に関する知識も多く関係することから、相関が高く出なかったと言える。次に、現在完了形理解度テストと V-check との間に相関は見られなかった ( $r = 0.154$ )。これは、現在完了形があくまでも文法項目の一つであるため、それだけでは文法の理解度を説明することができないことが理由として考えられる。一方で、TOEIC Reading と V-check との間には弱い相関 ( $r = 0.361$ ) が見られた。Zhang (2012) や van Gelderen et al. (2004) が指摘するように、単語知識が文章理解に影響することが理由に考えられる。V-check と TOEIC Listening については、相関が見られず ( $r = 0.134$ )、坂田 (2020) の、リスニングにおいては音声分析と内容理解の両方に語彙知識が影響するという説明とは異なる結果となった。その理由として、池田 (2003) が説明するように、リスニング力において重要な語彙力は、発音を聞いてその語を理解する能力であるが、V-check で測っている語彙力は字を読んで理解する能力であり、測っている能力が異なるということが考えられる。

RQ2 は、現在完了形の理解度と文法力との間に相関関係があるか、というものであった。現在完了形理解度テストと文法力テストの間には弱い相関 ( $r = 0.375$ ) が見られた。文法力があれば、現在完了形の理解度も高い傾向にあると推測されるが、必ずしも一文法項目である現在完了形のみでの理解度が高いとは言えないことが判明した。また、現在完了形理解度テストでは、過去形との混合だけでなく、現在進行形、過去進行形、過去完了形を選ぶ誤りも多く見られたことから、それらの文法項目についての理解も不十分であったことが、より現在完了形理解度テストの難易度を上げたと言える。現在完了形理解度テストを解くには、現在完了形に関する知識に加え、他の文法項目に関する知識も身に付いている方がより正確に解けるという点で、現在完了形テストと文法力テストとの間に弱い相関が見られたと考える。

RQ3 で、現在完了形理解度テストの上位群と下位群で現在完了形の意識・理解に違いがあるかを分析した。両群間で現在完了形に対する記述と経験した指導に差が見られないにも関わらず、現在完了形理解度テストの正答率の差が顕著であることが注目になる。上位群も下位群もある程度は現在完了形の使い方と過去形の違いについて言語化できていたことから、どちらも現在完了形の使い方について教科書やテキストで得られる表面的な知識は持っていると考えられる。また、共起ネットワークの結果に基づいて、指導法に関しても、上位群と下位群どちらも中学校と高等学校で日本語訳を使用した指導を受けた学生が多く、他にも時系列を使用した指導や問題演習など、従来型の指導を受けていたことが明らかになった。ここから、上位群と下位群が受けてきた指導は同じだが、授業内外での定着につながる学習の量や質に差があった結果、上位群の方が現在完了形全般の知識を正確に定着させることに意識を向けることができたことが示唆される。以上のことから、上位群は、大半が現在完了形の本質を言語化できた上で、その機能を理解していると考えられる。一方、下位群は、特に現

在完了形が使用される場面の想像ができていない、つまり、現在完了形の本質について言語化でき、おそらく訳出はできるものの、知識が定着しておらず、その機能の理解が十分でないため、運用できないことが推察される。ここから、現在完了形の使い方や4用法について説明することができることと、実際に使用することは異なることであることが考えられる。

## 7. 結論

本研究は、現在完了形の理解度と英語力の関係を明らかにすることを目的として、英語熟達度(TOEICスコア)と語彙サイズとの関係に着目した。得られた結果から、現在完了形の理解度とTOEIC Readingのスコア及びTOEIC全体のスコアとの間に弱い相関が見られ、現在完了形の理解度と語彙サイズには相関が見られなかった。また、語彙サイズとTOEIC ReadingとTOEIC全体のスコアとの間に弱い相関が見られることが判明した。

次に、文法力と現在完了形の理解度、英語熟達度、語彙サイズの関係を明らかにするため、文法力を測るテストを作成し、そのスコアとそれぞれの関係に着目した。得られた結果から、現在完了形の理解度と文法力の間には弱い相関が見られ、文法力とTOEIC Readingとの間に中程度の相関が見られた。

学習者の現在完了形の理解度を明らかにするために、現在完了形の理解に関するアンケートに答えてもらった。現在完了形理解度テストの上位群33名と下位群38名はどちらも現在完了形の本質を言語化できていたが、下位群は理解度テストの正答率が低かったことから、現在完了形の機能が定着していないことが明らかとなった。

指導法に関するアンケートの結果からは、学生は上位群、下位群どちらも類似した従来型の指導法で現在完了形を学習していた可能性があることがわかった。下位群の学生が現在完了形の機能について言語化できていたにも関わらず現在完了形理解度テストで正答率が低かったことから、現在完了形の文法指導においては、現在から過去に遡り、現在との関連を持つものである(小寺, 1977)という文法知識を定着させた上で、適切な場面で使用することができるよう促す指導が必要であると考えられる。

本研究は、現在完了形と混乱する文法項目として過去形のみを取り上げて分析したため、今後は現在進行形や過去進行形、過去完了形の理解度と現在完了形の理解度との関連についても調べる必要がある。

## 謝辞

本研究に取り組むにあたり、アイズマンガー・イアン先生(熊本大学大学院人文社会科学研究部)には現在完了形理解度テスト及び文法力テスト作成にご協力いただいた。折田充先生(熊本大学大学院人文社会科学研究部)には本研究全般についてご指導・ご助言を賜りました。記して、深謝申し上げます。

## 参考文献

- 池田広子 (2003). 「英語のリスニング・ストラテジーに関する一考察」『京都創成大学紀要』第3巻, 71-78.
- 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2022). 「TOEIC® Program DATA & ANALYSIS 2023 2022年度 受験者数と平均スコア」[https://www.iibc-global.org/toEIC/official\\_data/lr.html](https://www.iibc-global.org/toEIC/official_data/lr.html)
- 占部昌蔵・白畑知彦 (2014). 「現在完了形の誤り分析—過剰使用と過少使用—」『中部地区英語教育学会紀要』第43巻, 81-86. doi:10.20713/celes.43.0\_81
- 小寺茂明 (1977). 「現在完了形についての一考察—その本質的意味と効果的な指導法—」『島根大学教育学部紀要』第11巻, 61-72.
- 折田充・村里泰昭 (2008). 「英文法への自信度・理解度および英語熟達度に対する学習者特性の説明力」『熊本大学英語英文学』第51巻, 55-80.
- 終元弘文 (2016). 「短期大学部生の中学英語力及びそれと TOEFL・TOEIC スコアとの相関関係に関わる分析」『関西外国語大学研究論集』第104号, 187-206. doi: 10.18956/00007711
- 小屋多恵子 (1997). 「日本人英語学習者の現在完了の理解を促進させるアプローチ」『日本実用英語学会論叢』第1997巻, 5号, 23-36. doi: 10.11200/japeronso1991.1997.23
- 坂田直樹 (2020). 「英語学習者のリスニング能力の構成要素—語彙知識と統語知識の観点から—」『久留米大学外国語学習研究所紀要 / 久留米大学外国語教育研究所 [編]』第27巻, 43-62.
- 白畑知彦 (2018). 「外国語の文法学習における明示的学習・指導の役割を考える」『静岡大学教育学部研究報告. 教科教育学篇』第50巻, 169-184. doi:10.14945/00026215
- 杉浦理恵 (2008). 「高等専門学校生の英語の時制と相の理解に関する一考察」『茨城工業高等専門学校研究彙報』第43号, 1-22.
- 関正生 (2022). 『真・英文法大全』KADOKAWA.
- 高田純子 (2011). 「文法意識を高めるインプットを与えることの効果について～『現在完了形』と『現在進行形』の実践を通して～」『島根大学教育学部附属中学校研究紀要』第53巻, 79-88. doi: 10.24568/51643
- 高野秀之 (2011). 「英語現在完了表現の研究～言語類型論の視点から～」『嘉悦大学研究論集』第54巻, 35-61.
- 田中誠 (2017). 「TOEIC テストから考える中学英文法の重要性和指導内容」『長崎国際大学論叢』第17巻, 13-21.
- 中村優治 (2000). 「ラッシュモデルを用いた英語リーディング能力の分析」『国際基督教大学学報. I-A, 教育研究』第42巻, 261-276. doi: 10.34577/00001006
- 中條清美・横田賢司・長谷川修治 (2012). 「リメディアル学習者の英語熟達度と英語文法熟達度調査」『日本大学生産工学部研究報告. B, 文系 / 研究報告専門委員会 編』第45巻, 43-54.
- 西村奏咲・清水忠 (2021). 「テキストマイニングを用いたアンケート解析」『薬学教育』第5巻, 1-5. doi: 10.24489/jjphe.2020-009
- フォード順子・小林典子 (1993). 「日本語学習者による文法項目の習得に関する一考察—文法能力集



- 団別の習得度の差—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第8巻, 185-200.
- 松沼光泰 (2007). 「学習内容の体制化と図作成方略が現在完了形の学習に及ぼす効果」『教育心理学研究』第55巻, 3号, 414-425. doi: 10.5926/jjep1953.55.3\_414
- 村野井仁 (2016). 「日本人英語学習者の文法力測定のための診断テスト開発」『東北学院大学論集』第100号, 1-44.
- 森永弘司 (2008). 「語彙力増強の重要性—二つの大学の語彙力測定テストのデータに基づく—」『主流』第70巻, 85-105. doi: 10.14988/pa.2017.0000015217
- 渡邊勝仁 (2018). 「英語学習者に対する完了形の新しい学習法のための一考察— 3用法の理解難易度の検証—」『観光学研究』第17巻, 15-22.
- Aksoy, H. (2020). The relationship between grammar and vocabulary levels and their writing skills of those who learn Turkish as a foreign language. *Journal of Research in Social Sciences and Language, 1* (1), 18-29. doi:http://dx.doi.org/10.20375/0000-000D-FEA9-7
- Gelderen, A. V., Schoonen, R., Glopper, K. D., Hulstijn, J., Simis, A., & Stevenson, M. (2004). Linguistic knowledge, processing speed, and metacognitive knowledge in first- and second-language reading comprehension: A componential analysis. *Journal of Education Psychology, 96* (1), 19-30. doi: 10.1037/0022-0663.96.1.19
- Zhang, D. (2012). Vocabulary and grammar knowledge in second language reading comprehension: A structural equation modeling study. *The Modern Language Journal, 96* (4), 558-575. doi:10.1111/j.1540-4781.2012.013

### 資料1 現在完了形理解度テスト (抜粋)

#### Part 1

次の英文の空所を完成するのに最も適切な語を、①～⑤の中から一つ選んでクリックしてください。

1. A: 運動するのが好き?  
B: Yes, especially running. I like running so much that ( ② ) a full marathon three times. 【経験】  
① I'd completed ② I've completed ③ I complete ④ I'm completing ⑤ I was completing
3. A: 本当にこのギターくれるの?  
B: Yeah. ( ③ ) interest in it. I don't think I will play it anymore. 【結果】  
① I was losing ② I lose ③ I've lost ④ I'm losing ⑤ I'd lost
4. A: 日本語上手だね。日本にはどれくらい住んでるの?  
B: I ( ③ ) in Japan for ten years. 【継続】  
① am living ② was living ③ have lived ④ live ⑤ lived
6. A: 私はこの家に長いこと住んでいます。  
B: When ( ④ ) to this house? 【過去】  
① have you moved ② had you moved ③ do you move ④ did you move ⑤ will you move
7. A: そろそろ宿題をする頃よ。  
B: ( ⑤ ) doing it! 【完了】

- ① I'm starting ② I was starting ③ I start ④ I'd started ⑤ I've started
9. A: 昨日の試合の結果、どうだった?  
B: Our team ( ③ ). 【過去】  
① was winning ② wins ③ won ④ is winning ⑤ has won
10. A: そっちの国の天気はどう?  
B: It ( ② ) cold lately. 【継続】  
① is being ② has been ③ was being ④ be ⑤ been
11. A: このレストラン気に入った?  
B: Great! This is by far the best Italian restaurant ( ⑤ ). 【経験】  
① I visit ② I was visiting ③ I'm visiting ④ I'd visited ⑤ I've visited
13. A: 冷蔵庫に卵が入ってないから買ってくるね。  
B: Why didn't you LINE me! I ( ① ) to the supermarket. 【完了】  
① have just been ② just be ③ just been ④ will just be ⑤ had just been
14. A: Ouch! ( ④ ) my finger. 【結果】  
B: 大変だ。ほら、絆創膏を貼って。  
① I was cutting ② I'd cut ③ I will cut ④ I have cut ⑤ I'm cutting
16. A: どうしてそんな物を買ったの? 高いものは買うなって言ってるよね。  
B: You are always complaining about how much I spend. ( ① ) enough! 【結果】  
① I've heard ② I'd heard ③ I was hearing ④ I hear ⑤ I'm hearing
17. A: 新刊どうだった?  
B: It was so good that ( ④ ) it 3 times already. 【完了】  
① I was reading ② I read (過去形) ③ I read (現在形) ④ I've read ⑤ I'm reading
18. A: 2人とも仲良いよね。どれくらいの付き合いなの?  
B: We ( ② ) each other since elementary school. 【継続】  
① are knowing ② have known ③ were knowing ④ knew ⑤ know
19. A: フランスに行ってきたんだってね。何してきたの?  
B: I ( ④ ) to the Louvre Museum. 【過去】  
① have been ② go ③ am going ④ went ⑤ was going
20. A: 何でその話知ってるの?  
B: Well, actually ( ② ) of it before. 【経験】  
① I'd heard ② I've heard ③ I hear ④ I was hearing ⑤ I am hearing

## Part 2

話し手が、それぞれの英文を使うことができると思う場合は○を、使うことができないと思う場合は×を選んで下さい。

1. She has been ill for three days. 【継続】  
① 彼女の病気がまだ治っていない場合。( ○ )  
② 話者が彼女の体調について知っている場合。( ○ )

③ 彼女の体調がもう回復している場合。( × )

2. She hasn't finished her homework. 【完了】

① 提出期限が来たため、すでに提出済みの場合。( × )

② 依然として課題に取り組まなくてはならない場合。( ○ )

③ まだ課題に取り組んでいる最中である場合 ( ○ )

3. I have seen the movie twice so far. 【経験】

① 私が特定の時にその映画を見たと言いたい場合 (いつ見たかを強調しなくてはならない場合)。( × )

② 私がその映画を2回見たことがある場合。( ○ )

③ 私がこれまでにその映画を見たことがあると言いたい場合 (いつ見たかを強調しなくて良い場合)。( ○ )

5. I have opened the door. 【完了】

① 自分がドアを開けたことを伝えたい場合。( ○ )

② ドアがすでに閉められている場合。( × )

③ ドアが現在も開けられたままである場合。( ○ )

6. I have lost my wallet. 【結果】

① 私は財布をなくして探していたが、すでに見つかっている場合。( × )

② 私が財布をなくしたばかりで、財布がまだ見つからない場合。( ○ )

③ 私が財布をなくして、今見つけた場合。( × )

9. I read your blog many years ago. 【過去】

① そのブログを読んでから時間がたっている場合。( ○ )

② そのブログを現在も読み続けている場合。( × )

③ 今はもうそのブログを読んでいない場合。( ○ )

10. He has gone to England. 【結果】

① 彼も話者もイギリスにいる場合。( × )

② 彼が現在イギリスにいて、話者はいない場合。( ○ )

③ 彼がイギリスから戻ってきた場合。( × )

12. I have played tennis for five years. 【継続】

① 私がテニスをしたことがある場合。( ○ )

② 私もうテニスを辞めてしまっている場合。( × )

③ 私が今もテニスを続けている場合。( ○ )

13. I lived in China for three years. 【過去】

① 私が今も中国に住んでいる場合。( × )

② 私が中国に住んだことがある場合。( ○ )

③ 私が今は中国以外の国に住んでいる場合。( ○ )

14. I've been to that restaurant three times. 【経験】

① そのレストランにこれまでに一度も行っていない場合。( × )

② そのレストランに3回行ったことがある場合。( ○ )

- ③ そのレストランに昨日3回行った場合。( × )
15. She has lived in Tokyo for six years. 【継続】
- ① 彼女が現在東京に住んでいる場合。( ○ )
- ② 彼女が現在東京以外に住んでいる場合。( × )
- ③ 彼女が6年前から東京に住んでいる場合。( ○ )
16. I practiced the piano for five years. 【過去】
- ① 現在もピアノを練習し続けていると伝えたい時。( × )
- ② ピアノを練習したことがあるということだけが伝えれば良い時。( ○ )
- ③ 5年間ピアノを練習していた時期がある場合。( ○ )
18. He has broken the window. 【結果】
- ① 窓がまだ割られたばかりで、破片が散らばっている状態の場合。( ○ )
- ② 窓が割れてしばらく経ち、割れた窓も修理されている状態の場合。( × )
- ③ 窓が誰かによって割られて、彼が修理をしている場合。( × )
19. I've repaired my computer. 【完了】
- ① パソコンを修理したおかげで、今は問題なく使えているとき。( ○ )
- ② パソコンの調子が悪かったため、修理したことを伝えたい場合。( ○ )
- ③ 前にパソコンを修理したが、今また故障しているとき。( × )
21. Have you seen the movie? 【経験】
- ① その映画を何回見たか知りたい場合。( × )
- ② 昨日テレビで放映された映画を見たか知りたい場合。( × )
- ③ その映画を見たことがあるかを知りたい場合。( ○ )

## 資料2 文法力テスト

1. I ( ② ) in the sea then, so I didn't have my smartphone with me. 【過去進行形】
- ① swim ② was swimming ③ swam ④ am swimming ⑤ have swum
2. "I like my job, but I wish I made more money."  
"Me too. If I ( ① ), I could buy a new house." 【仮定法過去】
- ① did ② do ③ had ④ have ⑤ have had
3. I was surprised because you very much ( ③ ) my ex-boyfriend. 【受動態】
- ① were resembled by ② were resembling ③ resembled ④ resembled to ⑤ would be resembled
4. I don't think I can meet you at seven tomorrow night because I have a lot of homework this week. Probably, ( ⑤ ). 【未来進行形】
- ① I'm still studying ② I'm still at study ③ I still study ④ I'll still study ⑤ I'll still be studying
5. This classical music is a real masterpiece. I think it's worth ( ② ) over and over again.  
【動名詞】
- ① to listen to ② listening to ③ be listened to ④ to be listened to ⑤ listening to be
6. "Why is this letter still here?"  
"Oh, no! ( ④ ) posted it yesterday but I completely forgot." 【助動詞】

- ① I'd    ② I've    ③ I could've    ④ I should've    ⑤ I must've

7. The art museum is holding a special event ( ② ) a number of famous expressionist works.  
【現在分詞】

- ① exhibited    ② exhibiting    ③ exhibits    ④ has exhibited    ⑤ being exhibiting

8. The cafe opens at 7:00 and serves breakfast ( ⑤ ) 10 o'clock. 【前置詞】

- ① since    ② within    ③ for    ④ by    ⑤ till

9. The firemen had trouble getting to the street ( ① ) the buildings were on fire. 【關係副詞】

- ① where    ② which    ③ that    ④ why    ⑤ how

10. The boys ( ④ ) basketball on the courts right now, so why don't we go see it together?  
【現在進行形】

- ① were playing    ② play    ③ have played    ④ are playing    ⑤ played

11. The bus ( ③ ) when I reached the bus stop, so I didn't have to wait in the cold.  
【過去完了形】

- ① will have arrived    ② has already arrived    ③ had already arrived    ④ previously arrive  
⑤ previously arrived

12. You should write down her phone number ( ① ) you forget it. 【接續詞】

- ① in case    ② in the case    ③ so far as    ④ so long as    ⑤ so that

13. The question ( ⑤ ) at today's meeting is whether we should put the plan into action.  
【不定詞】

- ① discussing about    ② is discussed    ③ discussed about    ④ to be discussing    ⑤ to be discussed

14. If it had not been for his mother's wise advice, he ( ③ ) in trouble now. 【假定法過去完了】

- ① will not be    ② will have been    ③ would be    ④ would not be    ⑤ would have

15. It ( ② ) for him to learn that his phone had been stolen. 【過去分詞】

- ① was shocked    ② was shocking    ③ shocked    ④ has shocked    ⑤ being shocking

16. ( ④ ) as the leading actor in the drama, he soon became a star. 【分詞構文】

- ① Choosing    ② Choose    ③ Having chosen    ④ Having been chosen    ⑤ To choose

17. Our mother was sick at home, so we did ( ③ ) we thought was needed to complete the housework. 【關係代名詞】

- ① how    ② that    ③ what    ④ it    ⑤ which

18. I think eating at a restaurant is often ( ⑤ ) less economical than eating at home. 【比較】

- ① worse    ② high    ③ too    ④ very    ⑤ far

19. Do you know ( ④ ) buy a birthday cake for my daughter? 【疑問】

- ① where can I    ② can I where    ③ I can where    ④ where I can    ⑤ can where I

20. They were not in the ( ① ) anxious about it. 【否定】

- ① least    ② latest    ③ last    ④ less    ⑤ all

21. I broke my lunch box again, so I have to go shopping to get ( ③ ). 【代名詞】

- ① other    ② the other    ③ one    ④ it    ⑤ any



## Japanese College Students' Understanding of the Present Perfect Tense and Its Correlation With General Grammar Knowledge, English Proficiency, and Vocabulary Size

Shiori Hatanaka, Tomoko Matsumoto

This paper focuses on the present perfect tense, which is difficult for Japanese learners of English. Correlation between the comprehension of this tense and English proficiency, general grammar knowledge, and vocabulary size is examined using a sample of Japanese university students. Students' explicit knowledge of the tense and experience of learning it are also examined. Measures included a present perfect tense comprehension test, a grammar test, and an additional questionnaire. Correlations were plotted using scores from these measures and scores from the TOEIC-IP and V-check (vocabulary size test). The results showed that present perfect comprehension had a weak relationship with reading skills and grammar knowledge, and no relationship with listening skills and vocabulary size. The questionnaire showed that the top- and bottom-performing groups on the present perfect comprehension test had similar learning experiences and a similar amount of knowledge of the tense.